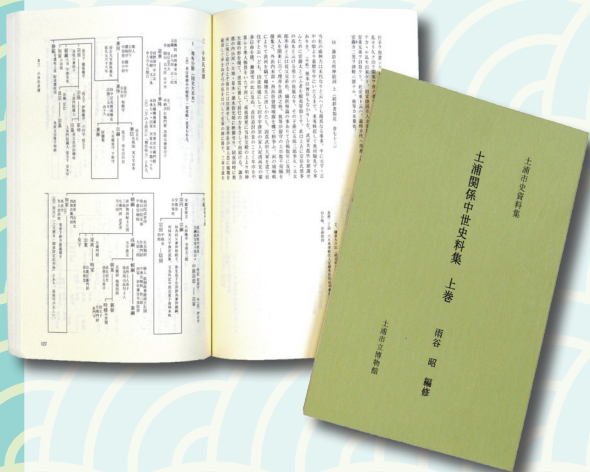


未来への伝承

土浦地域に関わる中世(鎌倉〜室町時代)の史料を全国的に探索し、解読した史料集が博物館から刊行されました(『土浦関係中世史料集 上巻』雨谷昭編修 2015年3月刊行)。今回刊行した上巻には、鎌倉時代から南北朝争乱期(12世紀〜14世紀)にかけての古文書など総数500余点の史料が解読され、豊富な注釈をつけて掲載されています。土浦地域に関わる中世史料を所蔵する京都府立総合資料館や安楽寿院(京都市)、国立公文書館など全国各地に足を運び、できる限り正確に解読し収録しているのが特徴です。

中世の土浦地域は、当初その多くが京都の公家の荘園になっておりましたが、その後幕府の



土浦関係中世史料集

『土浦関係中世史料集』の刊行 —江戸時代以前の土浦の記録—

有力御家人小田氏が、今のつくば市小田に城を構え、土浦地域もその支配下に入るようになりました。また、中世の常陸国では、宗教界にも大きな変動がありました。大和西大寺の僧忍性の小田来住による律宗の興隆もそのひとつで、土浦市内には般若寺や平安時代初期に起源をもつ東城寺など、中核となる律宗寺院が生まれました。

史料集は、三部で構成されています。第一部の「庄園関係」では、京都の八条院領(皇室領)だった信太荘や南野荘などの成り立ちや動きに関わる史料がまとめられています。当時の土浦が南朝方の所領で、その経済的基盤となっていたことなどを明らかにしています。

第二部の「鎌倉時代」は、当時の歴史書『吾妻鏡』の中から、土浦地域を治めていた小田氏の所領に関する記載などを年代順に掲載し、小田氏の所領の変遷とともに土浦の移り変わりが見える史料が網羅されています。また、「金沢文庫古文書」や「西大寺光明真言結縁過去帳」、「雑談集」など、僧忍性や般若寺、東城寺などの律宗寺院に関わる史料がまとめられ、その重要性を浮かび上がらせています。

第三部の「南北朝の争乱」は、常陸国の争乱に焦点を当て、常陸北部に拠点を置いた北朝方の佐竹氏と南朝方の小田氏との対立に関わる史料などを紹介しています。市内藤沢城は、小田氏の拠点のひとつであったことから、これらの



般若寺の結界石(県指定文化財)

史料をとおして南北朝争乱期における新治地域のありようが見えてきます。なお、第四部(南北朝〜室町時代前期)、第五部(室町時代後期・戦国時代)は史料集の下巻に掲載予定で、現在刊行に向けて準備中です。

博物館では、「霞ヶ浦と古代・中世の土浦のコーナー」で、律宗寺院であった般若寺・東城寺とその関連資料(般若寺銅鐘・結界石、「雑談集」写真など)や小田氏関連資料などを紹介しています。また、12月27日までの秋季展示では、上記の「金沢文庫古文書」や「西大寺光明真言結縁過去帳」(いずれも複製品)などの貴重な史料を公開しています。ご紹介した史料集も博物館で閲覧できますので、この機会にぜひご来館下さい。

※なお、『土浦関係中世史料集 上巻』は、博物館受付にて一冊2000円で販売しています。

■ 国市立博物館 ☎ 824・2928

■ 発行 土浦市
〒300-8686 土浦市大和町9番1号
☎ 029-826-1111
E-mail info@city.tsuchiura.lg.jp
HP http://www.city.tsuchiura.lg.jp/



スマートフォン用ホームページ▶

■ 編集 市長公室広報広聴課
■ 発行日 平成27年12月1日
■ 人口と世帯数 14万1207人 5万9384世帯
(平成27年11月1日現在)
この広報紙は環境に配慮し、再生紙・植物油インキを使用しています。

次回「広報つちうら」12月中旬号は、12月15日(火)発行予定です。